

薬局薬剤師が糖尿病連携パス参画の診療所で 患者啓発

小郡市の慢性腎不全の医療費比率が県全体の半分に

福岡県の小郡・大刀洗地区では「小郡循環型糖尿病連携パス」が構築されています。久留米市にある総合メディカル株式会社 北野調剤薬局は、連携パスに参画する診療所で開催される患者啓発教室の一部を担当、管理薬剤師の石井美帆氏が糖尿病薬に関するレクチャーを行っています。

また、同社は糖尿病をテーマとした薬薬連携「小郡七夕薬薬ネットワーク連絡会」の立ち上げに携わり、糖尿病療養に対する地域全体の潜在力向上に寄与しています。



総合メディカル株式会社
北野調剤薬局
(福岡県久留米市)

管理薬剤師
石井 美帆氏

Profile

北里大学卒

2010年より嶋田病院(福岡県小郡市)を中心とした糖尿病地域連携に参加。福岡県糖尿病療養指導士として多職種と連携しながら、患者ケアだけでなく、地域での糖尿病啓発活動にも携わる。

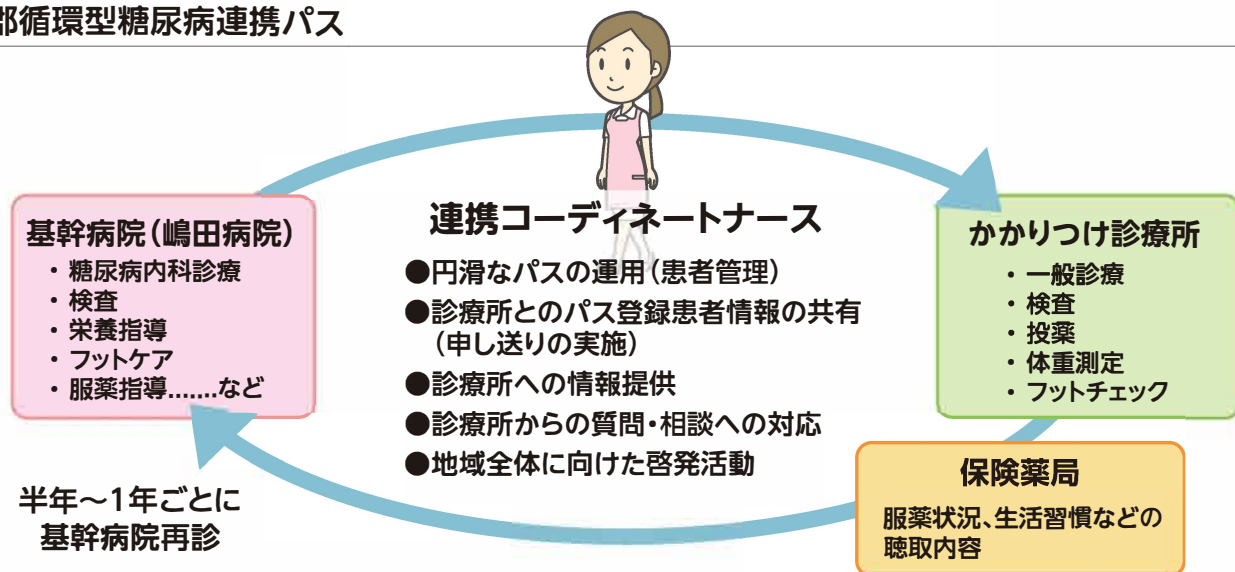
連携専門の病院看護師と薬局薬剤師が 診療所訪問し情報共有

——福岡県の南西部、小郡・大刀洗地区では糖尿病連携パスが構築され、保険薬局も連携パスに積極的に参画されています。まず、「小郡循環型糖尿病連携パス」について、お聞かせください。

石井 福岡県の小郡・大刀洗地区は7万4,000人の人口があるにもかかわらず、糖尿病専門医は当初1人しかいませんでした。現在は2人になりましたが、それでも、専門医が全ての糖尿病患者さんの診療を行うことはできませんので、2007年から小郡市の嶋田病院が「小郡循環型糖尿病連携パス」の運用をスタートされました。

当地区の連携パスは「コーディネーターナース」という連携専従の看護師を配置し、このコーディネーターナースが診療所を1軒1軒訪問して、診療情報提供書と連携パスシートを手渡しつつ、受診報告を行っていることが最大の特徴です。コーディネーターナースの活動が、小郡循環型糖尿病連携パスを支えていると言っても過言ではありません。

コーディネーターナースは診療情報提供書に書かれている内容の背景など、例えば、この検査をなぜ行ったのか、なぜ処方変更になったかなど、診療情報提供書の行間を説明されています。私たち薬局薬剤師は、一部の患者さんについて、「申し送り」と呼ばれるコーディネーターナースと診療所の医師との情報共有の場に同席しています。ここでは糖尿病療養上の問題点などを共有し、さらに解決のためのディスカッションを行っています。場合によって、コーディネーターナースは、療養指導に必要な食事や合併症に関する資料を持参したり、診療所や薬局のスタッフに対してインスリンや自己血糖測定の手技の指導を行うなど、診療所や薬局でも病院と同じような療養指導が行える体制を作っています。



——嶋田病院は、連携する診療所で糖尿病教室も開催されているそうですね。

石井 はい、「出張糖尿病教室」と名付けて、地域の診療所で開催されています。交通手段がないなど、さまざまな事情から嶋田病院まで行けない患者さんがおられますので、そうした患者さんやご家族などを対象に、診療所の休憩時間を利用して待合室で開いています。基本的には、嶋田病院の管理栄養士や看護師、理学療法士など医療スタッフが出張して啓発活動を行っているのですが、薬に関しては嶋田病院より依頼を受けて、1クール6回の1コマを私どもが担当しています。嶋田病院と連携する診療所は約60施設あるのですが、私がお協力しているのは、まだ1施設だけです。

多くの薬局が食事や運動の 糖尿病療養指導を実践

——定期的な勉強会を地区で開催されているそうですね。

石井 糖尿病連携パスの「申し送り」への参加や、糖尿病教室を担当して他職種と関わる機会が増えたことで、病院や診療所では、通常の診療時間内で多岐に渡る糖尿病療養指導のすべてを行う事が難しいという問題を抱えていることを知りました。そこで、薬局でも糖尿病療養指導を行うための知識、スキルを身につけるため、嶋田病院と久留米三井薬剤師会と当社が連携し、2012年に「小郡七夕薬業ネットワーク連絡会」という糖尿病をテーマにした勉強会を立ち上げました。隔月で開催していて、今年4月までに通算41回を数えました。

この勉強会は私が代表世話人をつとめており、専門医の講義、コーディネーターナースによる糖尿病療養指導のポイント説明、薬剤師による糖尿病協会が発行している雑誌「さかえ」の抄読などを行っています。この勉強会は薬局で薬剤

師が糖尿病療養指導を行うことを目的としているので、薬物療法に限らず、病態、合併症、食事、運動についてなど、内容は非常に多岐に渡っています。参加者は毎回50～60人で、糖尿病専門医やコーディネーターナース、管理栄養士、地域の薬局薬剤師などの他、この勉強会に出席しますと、地域糖尿病療養指導士の資格更新の単位が付与されますので、地域で活動するさまざまな職種の地域糖尿病療養指導士の方も参加されています。最近では行政の方も参加されていて私としては、糖尿病に通じた専門職が地域にいることを行政の方々に知っていただくことも、地域連携を行う上では有益だと考えていますので、行政関係の方々に参加していただけることを、とても嬉しく思っています。

「小郡七夕薬業ネットワーク連絡会」には地域の約8割の薬局が参画しています。これらの薬局では療養指導パンフレットを患者さんに配布していることも大きな特徴です。このパンフレットは以前は嶋田病院でのみ配布されていましたが、薬局でも糖尿病療養指導を行うために、勉強会発足時より薬局での配布を開始しました。地区全体で指導内容を統一するため、パンフレット作成はコーディネーターナースが担当しており、季節ごとの注意すべき食べ物や減塩、眼科受診や歯科受診の重要性など、さまざまなテーマが取り上げられ、2か月ごとに内容が変わります。薬剤師は「小郡七夕薬業ネットワーク連絡会」の席上で、コーディネーターナースより指導のポイントとなる点の説明を受けて、糖尿病の処方せんを持参された患者さんに、ひと言の説明を加えて配布しています。また、同じ内容のポスターも作成され、小郡地区の眼科、歯科を含めた診療所にも一斉に貼り出されますので、薬局で説明を受けるだけでなく、何度も目にすることで患者さんに「これは大事なことなんだ」と理解していただけるような仕組みになっています。このように薬局での療養

指導パンフレット配布は、地区全体で行う糖尿病啓発活動に発展しています。

あくまで私個人の印象なのですが、「小郡七夕薬業ネットワーク連絡会」の取り組みによって、この地区の薬局薬剤師の療養に関する知識・情報・スキルは確実に底上げされていると思っています。そうした活動の結果、薬だけでなく食事や運動の糖尿病療養指導を、多くの薬局薬剤師が行えるようになっていきます。

小郡市の慢性腎不全の医療費比率が 県全体の半分に

——地域で糖尿病療養に取り組んできたアウトプットが、数字で明らかになっているのでしょうか。

石井 薬剤師だけの取り組みの成果ではないのですが、後期高齢者医療保険の2015年度最大医療資源疾患名での医療費分析の結果では、慢性腎不全(透析あり)に対する医療費が福岡県全体は13.2%なのに対し、小郡市では7.6%と約半分に抑えられています。透析導入を防ぐことは、患者さんご本人の利益にも繋がりますし、医療費の抑制に直結します。むしろ、この数字からは薬局薬剤師の貢献がどの程度あったのかは理解できませんが、こうした結果をもたらすことができたのは、薬局薬剤師を含めた地域全体の取り組みの成果だと考えています。

——石井さんの今後の目標をお聞かせください。

石井 糖尿病患者さんがドロップアウトしてしまうと、その後のフォローが困難になってしまいます。行政や嶋田病院では、そうした患者さんを拾い上げる努力をなさっていますので、薬局としても、そうしたドロップアウトした患者さんの掘り起こしやドロップアウトを防ぐための取り組みを行わなければいけないと感じます。

小郡市の医療費分析:後期高齢 (生活習慣病に占める割合)

平成27年度最大医療資源疾病名での分析

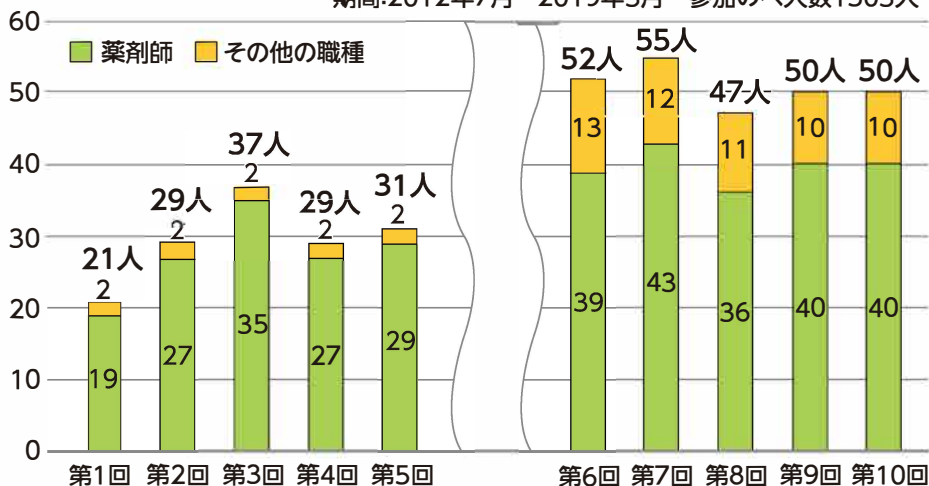
	国	福岡県	小郡市	同規模地区
がん	17.1%	15.0%	17.4%	16.9%
糖尿病	7.7	6.2	5.7	7.7
高血圧症	10.3	8.9	9.5	10.7
精神	7.7	10.2	12.7	8.1
筋・骨格	24.6	25.5	25.7	24.2
慢性腎不全 (透析あり)	11.7	13.2	7.6	11.8

KDBシステムNO.3 健診・医療・介護データからみる地域の健康課題
(最大医療資源傷病名による:調剤含む) から作成 (国保連合会より提供)

私たちは、日常的に「療養指導」という文言を使用していますが、特に糖尿病などの生活習慣病は患者さん自身が行う療養が多いため、「指導」ではなく「支援」が適切だと感じています。特に薬剤師の場合、その専門である薬の領域は、糖尿病療養のほんの一部に過ぎません。そのため薬剤師は糖尿病療養指導をよく理解することに加え、療養を「支援」する姿勢が大切だと考えています。また、最近、強く感じていることは、「続ける」ことの大切さです。先にご紹介したアウトカムも長く続けてきたからこそ得られた結果だと思いますので、「良いことだから継続する」という信念を持ち続け、そして、それを実行し続けることが大事だと考えています。ですから私も可能な限り「小郡循環型糖尿病連携パス」の取り組みに関わり続けたいと思っていますし、この地区の糖尿病療養指導士が1人でも多く増えてほしいと考えています。同様に、多職種と連携する薬剤師の仲間が、1人でも増えてほしいと願っています。

勉強会への参加人数

期間:2012年7月~2019年3月 参加のべ人数1503人



8職種と多職種が参加

- ・医師
- ・看護師(病院、クリニック)
- ・薬剤師(病院、薬局)
- ・管理栄養士
- ・理学療法士
- ・歯科医師
- ・保健師
- ・相談員

糖尿病療養指導士の
資格取得を目指す
医療スタッフが出てきた。